

水中文化遺産調査研究事業

25年度予定額 20百万円

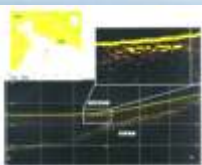
趣旨・目的

- 我が国には、200を超える水中遺跡が存在していることが知られている。これらは、海洋国家である我が国の成り立ちや海外との交流の歴史を知る上で欠くことができない貴重な文化遺産である。
- 平成24年2月には元寇船が沈没している長崎県松浦市鷹島神崎遺跡を史跡に指定するなど、水中遺跡に関する国民の関心も高まっている。
- 水中遺跡は、水中に所在するという特殊な立地条件にあるため、その調査や保存については手法が確立されておらず、我が国の水中遺跡の「調査や保存に係る手法の在り方」について、鷹島遺跡等を題材に、調査研究を行う。

事業内容

技術的検討

遺跡の把握



- 最新技術の活用
- 効果と問題点
- 改善すべき点
- 応用できる他分野の技術
- ※技術開発の方向性の検討

調査法の確立



- 技術的な課題
- 人的な課題
- 組織的な課題
- ※検討課題の整理

保存処理



- 引き揚げ遺物の保存
- 水中における保存
- 新たな技術の検討
- ※新技術開発のための実験

諸外国の動向

- 韓国、中国、豪州、英国等調査、保存、活用事例等

法的検討

- 国内法制
- 国際法制(条約、慣習等)法的な課題の整理等

我が国の水中遺跡

- 全都道府県に亘る悉皆調査各遺跡の特徴、内容を整理



我が国の水中遺跡の調査・保存にかかる「方針」策定へ

<鷹島神崎遺跡>上空から

工程

25年度

- ・鷹島遺跡調査
- ・調査保存調査

26年度

- ・鷹島遺跡調査
- ・調査保存調査

27年度

- ・全国悉皆調査
- ・調査保存調査

28年～

- ・報告書作成
- ・研修 等

鷹島神崎遺跡の元寇船



小値賀島海底遺跡



※長崎県小値賀町 中世の交易拠点

いろは丸



※広島県福山市沖坂本龍馬の船として著名

海上がり遺物



※日本近海のあらゆる場所で、さまざまな時期の遺物が採集されている

海外の事例 バーサ号



※スウェーデンの軍艦
1628年竣工、1956年
引き揚げ